

世田谷区立砧南小学校・砧南中学校出身のプロサッカー選手で浦和レッズレディース所属の後藤若葉さんにインタビュー。学業とサッカーの両立や今後の目標を語っていただきました。インタビューの後、後藤選手は皇后杯の決勝で先発出場し、チームの優勝に貢献されました。

サッカーを楽しむという 気持ちは忘れない



サッカー選手
後藤 若葉さん
Profile

東京都世田谷区出身。2001年6月4日生まれ。2024年、早稲田大学ア式蹴球部女子より三菱重工浦和レッズレディースに加入したDF(ディフェンダー)。ひたむきな姿勢と予測に優れ、安定した守備を見せるほか、足元の技術もあり、攻撃のビルドアップでも力を発揮する。性格も常に前向きで地道に努力を積み上げることができる選手。2022年に開催された第19回アジア競技大会出場の日本女子代表にも選出された経験を持つ。

サッカーと学業の両立

「サッカーを始めたきっかけとサッカー選手になりたいと思ったのはいつ頃から教えてください。」

サッカーとの出会いは、兄がサッカーをやっていた影響もあり、幼稚園でやり始めました。2011年になでしこジャパンがW杯で優勝したときに、カッコいいと思って、実際にあの舞台上に立ってみたいなとサッカー選手を意識したと思います。

「区立砧南小と砧南中は、どのような学校生活を送っていましたか。」

体を動かすのが好きだったので、休みに、ドッジボールやバスケットボール、鬼ごっこをして、校庭を走り回っていましたね。小学生のときは、本当に休み時間がすごく楽しかったです。

「学業とクラブチームの練習は、どのように両立されていましたか。」

テスト1週間前の休み期間だけでは、勉強は追いつかないので、電車での往復の1時間は、単語帳で勉強していました。

また、小学生のときから、朝6時半には起きて、30分勉強してから朝食を食べるという習慣がありました。中学生からは朝の勉強時間を1時間に上げて、毎日少しずつやって、練習が休みの月曜日に学習のまとめをしたりしていました。

「高校生のときに国際大会で活躍されていますが、印象に残っていることはありますか。」

一番印象に残っているのは、試合のとき、選手が乗っているバスをバトカーが先導してくれたことです。あとは、スタジアムの雰囲気も含めて、日常とは違う感じで、やはり日の丸を背負うって、責任あることだと、すごく感じましたね。

「高校卒業時に、プロではなく進学を選択された理由をお聞かせください。」

競技面だけ考えれば、絶対にトップチームに上がったほうがよかったです。WEリーグが、正式に活動していなかったのが、読みなかつたです。違う環境で挑戦してみたいという思いが

ありました。スポーツ選手は、いつ、けがで選手生命が終わってしまうか分からないですし、女子サッカー選手はキャリアが短いと思います。将来、サッカーを辞めた後にスポーツに関係する仕事に就きたいと思ったときに、早稲田大学で学んだことが役に立つのではないかと、進学を選択しました。

「2022年の第19回アジア競技大会に、大学生で唯一、サッカー日本女子代表に選ばれましたが、優勝したときの気持ちを教えてください。」

大学生でアジア大会に呼んでもらえたというのは、自分が目指していたところ、一歩近づけたと思いました。優勝に貢献できたというのは、自信にもなりまして、大学サッカーを知ってもらえるきっかけになりました。これから、高校生や中学生の進路選択で、少しでも大学サッカーに興味を持ってもらえたらいいなと思います。

「プロとして立ち振る舞いを意識! 昨年、レッズレディースに加入し、プロとなって感じたことを教えてください。」

プロ選手は、サッカーをして給料をいただいているので、これまでとは本当に重みが違うと思います。一つ一つのプレーの責任がすごく大きいと理解していますが、ピッチに立ったときには、サッカーを楽しむという気持ちは忘れないでプレーしたいと思います。また、プレーを見てくれる子どもたちには、ピッチに立ちたいと思ってもらえるような立ち振る舞いを意識してやっていきたいと思っています。

「子どもたちに向けて、サッカーのどのようなところを楽しんでほしいか、教えてください。」

自分が点を決めるだけではなく、仲間と協力してゴールを決めることを意識してやってもらいたいと思います。あとは、素直にサッカーが楽しいなというのは、絶対にいつになっても忘れないでほしいです。

「今後の目標やどのようなサッカー選手になりたいかをお聞かせください。」

試合を見に来てくれた人がまた来たいと思ってもらえるサッカーがしたいです。そんなプレーのできる選手になりたいです。試合中に熱くなってファウルをする、水の入ったボトルやボールを投げつける等の行為を観客が見ても、その選手を応援したいと思えないですし、そういう一つ一つの行動を見られているところを意識しています。また、チームの勝利に貢献して、応援してもらえる選手、応援したいと思える選手になりたいと思います。そして、まだ、このチームで何も成し遂げられていないので、大きなことは言えませんが、チームとしてチャレンジして日本代表という結果がついてきたらいいなと思います。

「最後に世田谷区の子どもたちに向けたメッセージをお願ひいたします。」

世田谷区は自然が多いですし、地域で元気に育ってほしいです。サッカーに限らずスポーツも楽しんで、また、勉強も大事なので、そこはしっかりとやってほしいと思います。スポーツは、戦術理解もすごく大事になってくるので、両立を大事にしつつ、体を動かして楽しむところも忘れずに成長してほしいと思います。

